

東葛・湾岸 ゾーン

暮らしやすさ
特長とヒミツ

東京もショッピングモールも やすらぐ自然もすぐそば



ここは都会やねえ
なんでもそろuyan



約440店舗もそろうショッピングセンター「三井ショッピングパーク らぽーと TOKYO-BAY」(船橋市)

県北西部に位置する“東葛”と、幕張新都心とその周辺の“湾岸”が一緒になったゾーンは、全12市。首都・東京に近接し、都内へ通勤・通学する人も多く、そのアクセスはとっても便利！

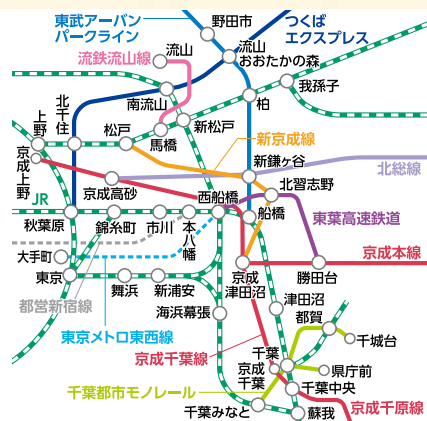
東京とのつながりが強いゾーンですが、地域にはショッピング・遊びスポット、病院なども充実し、暮らしは快適。都会なのに、空が広くて、広大な農地も市場もあるんです。この絶妙なバランスに、ワタシもハマっているんですよ。



秋葉原駅～つくば駅をつなぐ、2015年に10周年を迎えた「つくばエクスプレス」

充実の交通網で東京へ

どの市からも、公共の交通機関を使って都内にラクにアクセスできます。2015年上野東京ライン開通で、我孫子・柏・松戸駅からさらに便利に。快速利用で松戸駅～東京駅は最短約30分。



遅くまでやっている
クリニックもあり、
助かっています

暮らしを楽しむイベントも！ にぎわうショッピングスポット

移住者の中でも、買い物の便利さに魅力を感じている人は多数。遅くまで営業しているスーパーマーケットのほか、駅の近くにも百貨店、ショッピングモールが充実しています。エンターテインメント性が高く、イベントも数多く行われ、にぎわいの拠点にもなっています！



- 1 「イオンモール幕張新都心」(千葉市)はイオンのフラッグシップモールとして誕生！劇場、職業体験テーマパークなど、体験の場も多彩
- 2 「流山おおたかの森 S・C」(流山市)は、つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン「流山おおたかの森」駅前のショッピングセンター



- 3 「柏高島屋ステーションモール」(柏市)は、JR常磐線・東武アーバンパークライン「柏駅」直結のショッピングセンター



都会のオアシス的存在！ ゆったり過ごせる自然、公園

東京湾、利根川、江戸川、手賀沼などの水辺あふれる里山。まちには貴重な自然環境が残り、住む人たちが集える工夫も。イベントが多彩な公園が多いのもうれしい！また、野田市では“農業と自然の共生地域づくり”に取り組んだ結果、まちにホテルやドジョウといった生きものが戻ってきています。



1

1 我孫子市の南側に面する「手賀沼」では、水と緑が豊かな景色を楽しめるウォーキングやサイクリングといったレジャーが盛んです。「手賀沼親水広場・水の館」(我孫子市)には、手賀沼を一望できる展望室や子どもと一緒に楽しめるプラネタリウム、そして農産物直売所やレストランも備えており、ファミリーで楽しむことができます

2 まちなかの貴重な自然を守り育てる総合公園「21世紀の森と広場」(松戸市)。芝生の広場、散策路、バードウォッチングなど。講習会や講座も開催

3 1800年代のデンマークの田園風景を再現した「ふなばしアンデルセン公園」(船橋市)は、旅行口コミサイトで2015年「日本のテーマパーク」3位にランクイン



2



3



東葛・湾岸
ゾーン

8 流山市 **ながれやまし**
マーケティング課
流山市平和台 1-1-1
☎ 047-150-6064
<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/>

1 千葉市 **ちばし**
政策企画課
千葉市中央区千葉港 1-1
☎ 043-245-5054
<http://www.city.chiba.jp/>

9 八千代市 **やちよし**
総合企画課
八千代市大和田新田 312-5
☎ 047-483-1151
<http://www.city.yachiyo.chiba.jp/>

2 市川市 **いちかわし**
企画課
市川市南八幡 2-20-2
☎ 047-712-8591
<http://www.city.ichikawa.lg.jp/>

10 我孫子市 **あびこし**
企画課
我孫子市我孫子 1858
☎ 04-7185-1111
<http://www.city.abiko.chiba.jp/>
047-150-6064

3 船橋市 **ふなばしし**
政策企画課
船橋市湊町 2-10-25
☎ 047-436-2057
<http://www.city.funabashi.chiba.jp/>

11 鎌ヶ谷市 **かまがやし**
企画財政課
鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷 2-6-1
☎ 047-445-1073
<http://www.city.kamagaya.chiba.jp/>

4 松戸市 **まつどし**
政策推進課
松戸市根本 387-5
☎ 047-366-7072
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

12 浦安市 **うらやまし**
企画政策課
浦安市猫美 1-1-1
☎ 047-712-6039
<http://www.city.urayasu.lg.jp/>

5 野田市 **のだし**
企画調整課
野田市鶴泰 7-1
☎ 047-123-1111
<http://www.city.noda.chiba.jp/>

6 習志野市 **ならしし**
総合政策課
習志野市鷺沼 2-1-1
☎ 047-453-9222
<http://www.city.narashino.lg.jp/>

7 柏市 **かしわし**
企画調整課
柏市柏 5-10-1
☎ 04-7167-1117
<http://www.city.kashiwa.lg.jp/>



【家賃】※平成25年住宅・土地統計調査結果(総務省統計局)から ※「住生活基本計画」(国土交通省)健康で文化的な住生活の基礎として必要不可欠な住宅の面積に関する水準・単身世帯25㎡約15.43畳、4人世帯50㎡約30.86畳として1カ月の家賃(共益費、管理費、敷金、礼金を含まず)を計算

暮らしの“気になる”をチェック！

住環境・仕事

産業拠点として、特色あるまちづくりが進められてきたのが、東葛「柏・流山地域」、湾岸「幕張新都心」です。「柏・流山地域」は、つくばエクスプレス沿線でまちづくりが進行、「柏の葉キャンパス」駅周辺は、内閣府の総合特区・環境未来都市に認定され、これからの発展が期待されます！大学や研究機関も多く立地し、企業活動も活発な地域は、仕事も幅広く選択できそう。



「柏の葉キャンパス」駅周辺は人と環境にやさしいまちづくりが進行中

健康・医療

重症の救急患者を24時間365日体制で受入れる救命救急センターが6施設あり、また、多くの市において、夜間休日診療所が開設されています。浦安市では、高齢であっても健康で幸せな暮らしを実現する、まちづくりと健康づくりを連動。習志野市では2015年から、健康的な生活習慣のきっかけづくりと、その継続、定着を目指し、「ならしの健康マイレージ」をスタートさせています。



「ならしの健康マイレージ」は日々の運動などの取り組みでポイントが付与される仕組み



東葛・湾岸 ゾーン

移住者
インタビュー

山田美和さん

●連絡先

☎080-7025-1403
(平日10時~17時)

contact@mamacan-m.com

Facebookから
メッセージを
送る場合は
右記QRコード
からアクセス▶



松戸は都心にほど近く、 古い町並みと新しい施設が 融合した緑豊かな 子育てしやすいまちです。

山田美和さんは、地域で育児を頑張るママたちを支えるNPO法人MamaCanの代表。

今回は母親支援の大切さと地域作りについてお聞きしました。

子ども支援ではなく 母親支援をしている団体

活動地域は主に松戸市周辺です。ベッドタウンなので隣駅は東京都内で、通勤を第一に考えている方は非常に多い印象があります。ただ新たな商業施設が増えつつも、古い町並みがそのまま残っている地域でもあって、商店街の方達が頑張って地域を盛り上げている場所も多くあります。古き良きものをそのまま残しつつ、新しいものを融合していく。そういった場所なので、地域に留まる方も多く、私を含め比較的地元の人が帰ってくるケースが多いです。私たちは母親支援をさせていただいている団体です。今は、晩婚化もあって仕事のスキルをしっかり持っている方が、子どもを産んで家庭に入るといったケースが増えてきています。そこでこれまでと違うギャップやプレッシャーでストレスが溜まり、仕事を辞めて子どもと一対一で向き合う時間が増える中、「私って何のためにいるんだろう」「必要とされているんだろうか」という悶々とした時間を過ごすことになってしまうことがあります。それがきっかけで思うように育児が出来なくなってしまうという方もすごく多いです。

こういったお母さんたちが社会にしっかり参加し、社会にお母さん達の存在が認められるような場所を作っていく。お母さんたちが笑顔になると、その先にいる子ども達も母親の背中を見て笑顔で育っていく、ということを目指して活動をしています。

具体的には地域と母親達、家族をつなぐ目的で、イベント活動や講座、セミナーの啓発活動をしたり、他には育児情報誌の発行や地元の企業・商業施設とタイアップしてお母さんたちが活躍できる場所を提供する活動をしています。母親たちが出ていける場所があれば、どんどん出て行ってもらおうというコンセプトなので幅広く色々取り組んでいます。

母親達だけで「頑張ろうね」 じゃ意味がなかった

活動当初は、スキルや特技を持ったお母さん達にイベントに出店してもらい、育児をされているお母さんたちが遊びに来て、そこで癒されて帰ってもらいたいことをしていました。最初は参加した人たちは「楽しかったー!!」ってリフレッシュして帰ってくれていたのが満足していましたが、結局家に帰って一人になって、そこで「今日は楽しかったけど…」って再び放心状態の時間が続いてしまったり、そもそも引きこもってしまったお母さん達とは繋がれない課題がありました。

結局、母親達だけが「自分たちで頑張ろうね!!」だけじゃ全く意味がなく、周りが子育てに対して理解してくれることが非常に大事で、今の育児の現状を地域全体でどうやって良くしていくかを考えられるような時間と場づくりに力を入れています。





お母さん達を温かく見守って、 受け入れてあげてほしい

お母さん達には育児を「社会と繋がってない」「ブランク」というように思わないで欲しいです。育児をしていても社会と繋がっていますし、むしろ母親が社会を立派に作っているのだから自信をもってほしいと思います。育児していることは、コミュニケーション能力がアップしたり、家事と育児で時間の使い方が上手くなったり、スキルアップに繋がっています。仕事復帰等の時期は周りと比べるのではなく、自分と家族のタイミングで。無理をせず自分自身を大切に生活してもらいたいなということをお伝えしたいですね。そのために、とにかく地域全体で子どもたちを見守ってあげる。そこに一緒にいるお母さん達を温かく見守って、受け入れてあげてほしいというのが、団体として伝えたいことです。

子育てのためにアンテナを立てて、 情報収集を

都心に住んでいると時間のスピードも早いですし、働いている方も多いですし、そういったあくせくしている中では、なかなか子育てしづらい環境であるような気がしますよね。でも、それぞれの地区では、子どもを増やすために子育てに力を入れる取り組みをやっていきますし、松戸市も緑豊かで子育て環境も良く、サポートする子育て支援団体も多いので、お母さん達自身ののびのびと育児ができる環境が整っていると思います。一人で家事育児を頑張ろうとするのではなく、もっとアンテナを立てて地域と繋がって、支え合って子育てをしてほしいです。そのための情報収集の場として、NPOの相談やサポートをしている松戸市の「まつど市民活動サポートセンター」は有効で、悩みに合わせた団体に繋げることもできます。そしてMama-Canも個人とサポート団体や施設が繋がっていくことに力を入れています。



子どもたちが地域で育っていくために、 親もきちんと地域を自分たちの手で作る

子育て支援って言う子ども支援というイメージがあって、私達が多分地域で初めて母親支援を始めました。今では、お母さんたちがみんなで協力して育児していこうってコミュニティやサークルを自分たちで作る方たちが増えてきました。そこでは子どもが安全に遊んでいる。これはいい傾向だなあと思っています。そういうコミュニティをもっと利用して欲しいなと思っていますし、そういった中で孤立するお母さんを地域でサポートできればと思っています。まずは、お母さんたちがきちんと地域に関心をもって、地域の中で活かされるようにすることが大切で、そこで人が繋がっていくことでいろんな人がお母さんをサポートしてくれるような良い仕組みができればと思います。子どもたちが地域で育っていくためには、親もきちんと地域を自分たちの手で作って、意識を持って動かしていくという事を考えて欲しいですし、子育てにとっても地域づくりは非常に大事な所じゃないですかね。



東葛・澁岸 ゾーン

移住者
インタビュー

羽村太雅さん

●連絡先
柏の葉サイエンス
エデュケーションラボ(KSEL)
ksel.sci@gmail.com

柏の葉サイエンス
エデュケーションラボ
のホームページは
右記QRコード
からアクセス▶▶



東葛・澁岸ゾーンは、 県北西部の子育て支援が 充実している地域です。

そんなエリアで活動する「柏の葉サイエンスエデュケーションラボ(KSEL)」会長の羽村太雅さんに、科学や自然と子育てとの関係性についてお聞きしました。

子育てをテーマに 変わりゆく東葛エリア

県北西部の東葛エリアは子育てに力を入れているエリアで、柏、松戸、流山などそれぞれ地域別にも違いがあります。たとえば、流山周辺は幼稚園以下のお子さんを持つ若い家族向け、松戸周辺は共働き世帯向け、柏周辺では教育熱心な家族向けなど住む人々の特徴に合わせた子育て支援が拡充されています。その中で、「柏の葉サイエンスエデュケーションラボ(KSEL)」は東京大学柏キャンパスの学生と柏を拠点に、天体観望や昆虫観察、農作業体験などから理科を学ぶプログラムを開発しています。特に「理科の修学旅行」という合宿型スタディツアーは人気があり、都市部の子どもたちを、地方の山間地や県内では勝浦などの海岸に連れて行き、自然の中に興味関心を見つけ、自然体験の中で科学を学んでもらう自然体験ツアーです。

子どもの頃の自然体験が 科学研究の原点

実験教室などでは、保護者の方から「どうしたら子どもがお兄さんお姉さんみたいに科学に関心がある人に成長しますか」という質問をされる事があります。KSELのメンバー内で話し合ったところ、共通して子どもの頃に何らかの自然体験活動をしていました。例えば学校帰りにオタマジャクシを捕まえたり、お父さんと山に登ったり。

そもそも自然観察や自然体験は自然科学研究の原点で、自然の中から興味関心を見出す発想力が大切です。

子どもの頃の自然体験はサイエンティストの育成に繋がりますし、子ども自身の成長にも良い影響があります。





最新の科学研究に 触れられる地域

KSELは、東京大学の学生が専門分野の自然科学の話を通じて、柏に住む方々と交流したいという想いから始まりました。この地域が東京大学・千葉大学など最新の科学研究拠点が集まるといふ特徴を生かし、「都市部でも自然体験を通じて最先端の科学に触れることができ、子育ても充実している街」として成長できるように活動しています。

東葛エリアは、柏、松戸、流山など、地域の子育て支援の特徴もそれぞれ異なりますし、子育て支援関係の団体は非常に多いので、各地域の子育て支援センターや市役所などに相談しながら、ご自身に合う地域を選んでみてはいかがでしょうか。



地域の子育て団体について

各ホームページは右記のQRコードからアクセス！

流山市 おやこあんしん相談

<https://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1002359/1002366/1002369.html>



松戸市 まつど市民活動サポートセンター

<http://www.matsudo-sc.com/>



柏市 はぐはぐ柏

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/living/haguhagu/2100/2301/2302/index.html>

